

# 頸損解体新書 中間報告会

開催日時 : 2020年 9月19日 13:00~15:00  
開催場所 : WEB セミナー (WEB 会議システムZoom)  
プログラム :

挨拶・趣旨説明	鴨治慎吾 (全国頸損連)
概要と調査方法	宮野秀樹 (全国頸損連)
10年前、20年前との比較	丸岡稔典 (名古屋産業大)
単純集計結果	丸岡稔典・金井謙介 (The Light on Design Project)
	中村俊哉 (兵庫福まち研)・糟谷佐紀 (神戸学院大)
見えてきた課題	鈴木 太 (愛媛頸損連)
閉会挨拶	中村俊哉

参加者数 : 62人

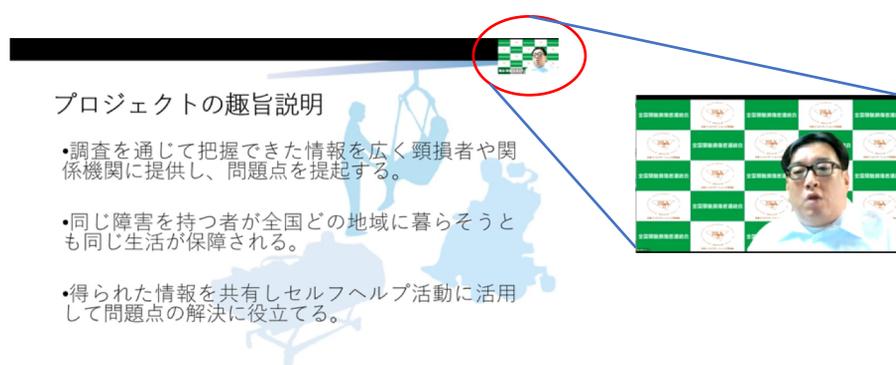


図1 趣旨説明を行う 鴨治氏

頸損解体新書2010発行より10年が経過しました。その後の頸椎損傷者の生活の変化を明らかにする事を目的に、「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」を全国頸髄損傷者連絡会と日本リハビリテーション工学協会を中心に組織した頸損解体新書2020実行委員会より実施しています。その実態調査の中間報告会を、2020年9月19日(土)にWEBセミナー方式で開催しました。

本報告会では今回実施した調査の単純集計を中心に、頸損解体新書(1991)や頸損解体新書2010との比較を行いました。

質疑応答の時間は設けず、参加者の中から2名の指定発言者にお話しいただきました。

実施したアンケートでも、多くの参加者からよかったという回答をいただきました。

来春には、頸損解体新書2020の発行と最終報告会を予定しています。

なお、本調査及び中間報告会は公益社団法人三菱財団による2019年度・社会福祉事業・研究助成(連携・協働型)を受けて、実施しました。